

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

理由

- ①平成13年の開園以来、513万人が利用（年平均27万人）しており、ニーズ調査（R2実施）で、約80%から存続を求められているため。
- ②利用者ニーズに沿ったコンセプトや名称の変更を行うことで、より一層親しみやすい施設となり幅広い来園者の増加が見込まれるため。

目指すべき施設像

誰でも気軽に自然・アウトドアを楽しめる憩いの場

- ①広大な自然とふれあい、安らぎをあたえる空間
- ②子供達のがのびのび遊べ、大人も気軽に楽しめる場

目指すべき利用者像

- ①ファミリー層（入園者の中心。土日利用者の大半）
- ②シニア層（平日利用者の大半。健康ニーズの高まり）
- ③若年層（近年増加傾向。SNS映え、アウトドア需要）
- ④団体（企業や学校、観光ツアー客等グループ利用）

定量的目標達成指標

- ①年間利用者数
 - 【公園】R3：31万人から段階的に増加。
R5～R12：33万人
 - 【研修館】R3：30,500人から段階的に増加。
R5～R12：31,500人
- ②利用者満足度
 - 【公園】R3：4.0から段階的に増加。
R5～R12：4.2
 - 【研修館】R3～R12：4.7という高水準を維持。

定性的目標達成指標

- ①四季を通じた花のイベントが開催できる環境整備
- ②アウトドアを学べ楽しめる施設としての知名度向上
- ③ウォーキングコース整備や自転車・ボート等の充実
- ④県産食材の提供充実と食を楽しめる仕組みづくり
- ⑤「農業」に限定されたイメージからの脱却

主な課題と解決策

開園から20年が経過しており、人口減少社会の中での新規ニーズ対応や補修が必要。飲食の充実も近年の課題。

【課題】

- ①人口減少・少子高齢化に関する課題
- ②施設管理に関する課題（公園）
- ③施設管理に関する課題（研修館）
- ④新たなニーズへの対応に関する課題
- ⑤飲食や物販の充実に関する課題

【解決策】

- ①若者やシニアなど幅広い年齢層の利用増加を図る。新規来園者獲得に向けた広報強化。
- ②計画的な施設等補修とエリア見直しを含めたりリニューアル。設置目的の見直しも実施。
- ③ニーズに合わせた研修内容のリニューアル。企業・団体への働きかけで貸館利用促進。
- ④自然体験の充実と健康ニーズへの対応。アウトドア環境・体験型アクティビティの充実。
- ⑤キャンプ用食材提供の開始や生産者等と連携した県産食材PRイベント、施設の充実。